

やちまた21

山本 正美
押尾 巖
小澤 定明
会嶋 誠治
加藤 弘

代表
質問 山本 正美

市長の政治姿勢

問 強力なリーダーシップの下の安心安全の確保、市民福祉の充実、快適なまちづくりの創造などの市政運営を引き続き期待し望むがどうか。また、今日までの市政運営をどのように考えているか。

市長 さまざまな施策展開により市民の方々が安全で安心して暮らせるまちづくりのための努力をしました。今後八街市民一人ひとりが健康で安全に安心して、住みよい活力あるまちづくりを目指し、引き続き努力していく。

幼児児童生徒の安全確保対策の充実

問 遠距離通学児童の利便性と安全確保のために通学バスの運行を図るべきと考

えるがどうか。

教育長 バス通学は安全性を確保する有効な方法です。現状ではさまざまな問題があり難しいと考えますが、子どもたちの安全な通学手段の確保という視点から、既存のふれあいバス、路線バスの活用など、工夫していく。

問 安全教育の推進に具体的にどのような取り組みをしているか、また、今後どのように計画的に推進しようとするのか。

教育長 児童生徒の登下校の時間には、教職員と家庭、地域、警察が連携し、一丸となって通学路の安全と学校敷地内外の巡視を含め、防犯パトロールを強化している。また、学校、家庭、地域、各関係機関が連携を取り合いながら、児童・生徒の安全確保に努めていく。

行財政運営

問 新年度一般会計予算案の特徴はどうか、また、市民要望を具体的にどのよう

に反映しているか。

市長 暮らし、福祉、教育分野を含め、バランスのとれた予算配分に努めた。
問 自主財源の安定的確保

を目指す中で、国保税を含む市税等の確保推進に具体的にどのように取り組んでいくのか。

市長 納税者の利便性と収納率の向上を図るため、コンビニ収納について費用対効果などを勘案し、検討したい。

商業の振興

問 新年度における既存商店街等活性化を促進する振興策はどうか。

市長 市内の10商店会等に対する街路灯電料補助事業、大型店進出対策資金利子補給事業を従来どおり実施する。

問 好評で市民の待望溢れる夏まつりの開催を2日間とできないか。

市長 平成18年度以降におけるふれあい夏まつりの開催期間並びに雨天中止時の順延等の取り扱いについては、実行委員会へ諮り十分協議したい。

問 既存市内工業振興策の推進を図ると共に工業団地等整備による企業誘致を図れないか。

市長 当市における財政基盤を強化する一環として、工業の振興を図る必要があ

り、「経営革新の支援策」、「技術開発・IT化の支援策」、「集団化を図る高度化事業に対する金融支援策」等、各種の支援策の活用で工業振興を図りたい。

八街駅周辺整備等の推進

問 バリアフリー化の促進整備並びに多目的スポーツ文化センター等の建設を望むがどうか。

市長 多目的スポーツ文化センター等の公共施設用地の面積は、概ね5千800㎡であり、具体的な施設内容は、現在決まっていない。

問 JR利用者の駐輪・駐車場の整備をどのように促進していくのか。

市長 民間主導による駐車場整備を期待している。

問 JR快速電車の増発をどのように図っていくのか。

市長 北口に駐輪場を整備し、八街駅の利便性の向上を図り、近い将来文化的施設を建設するなど、さらなる駅利用者の増加につながる施策を展開していく。

省エネルギー対策等の推進

問 公共施設における太陽熱利用などの先駆的な新工

ネルギー活用を図ってはどうか。

市長 太陽光発電システムを現在建設中の八街中央学校に設置している。

今後も建て替え等が必要となった施設については、地球温暖化などの環境問題やエネルギー問題の緩和につながる手法を積極的に取り入れたい。

問 分別収集に卓越した地区等の事例の紹介表彰等に務めると共に、非協力的な収集所の公表等をすべきと考えるがどうか。

市長 現在、市民からの要望により設置された、約1千350力所のごみ収集場所は、廃棄物の適正かつ円滑な収集運搬と生活環境の保全及び公衆衛生の向上に効果を上げています。ルール違反者が判明している場合は、職員が直接違反者に対して注意を促すとともに、設置管理者に協力をお願いしている。

学力向上

問 基礎・基本の定着と個性・創造性をのばす教育をどのように展開してきたか、また、新年度を含め今後どのように推進していくのか。

教育長 幼小中高連携教育の中で、継続指導6項目を掲げ、市内のすべての幼稚園・保育園・小学校・中学校で継続して指導している。

さらに、継続指導項目の家庭への浸透度をアンケートによって調査し、その結果を分析・考察して、次年度の教育計画に活かしていく。平成18年度は八街北小学校が、算数の研究成果を発表する予定になっている。

一つのクラスを複数の教員が指導したり、教員だけではなく、地域の専門家をゲストティーチャーとして招いて指導していただいたり、こちらから出向いて教えていただいたりと、地域の教育資源を有効に活用するよう各学校を指導していく。

問 学習活動の評価充実と学習習慣の確立を具体的にどのように推進していくのか、また、家庭との共同歩調をどのように具体的に構築していくのか。

